

令和6年における静岡市の災害対応

令和7年1月28日 静岡市防災会議

目 次

(地震関連)

- 1 令和6年能登半島地震と本市の対応
- 2 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表と対応

(風水害関連)

- 3-1 令和6年度の風水害
- 3-2 台風第10号の被害と対応

(その他)

- 4 林道東俣線における崩土

1 令和6年能登半島地震と本市の対応

地震の概要

- ・発生日時: 令和6年1月1日16時10分
- ・発生場所: 石川県能登地方 震源の深さ16km(暫定値)
- ・地震の規模: マグニチュード7.6(暫定値)
- ・各地の震度 震度7 輪島市、志賀町
震度6強 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
震度6弱 中能登町、長岡市
- ・津波警報等 大津波警報 石川県能登
津波警報 新潟県、富山県、石川県加賀ほか3県



人的・住家被害

	死者(うち災害関連死)		行方不明者	負傷者	
人的被害	489人 (261人)		2人	1,379人	
	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	一部破損
住家被害	6,445	23,225	6	19	120,029

ライフライン被害

- ・断水: 最大約136,440戸(建物倒壊地域等を除き断水解消)
- ・停電: 最大約44,160戸(電気の利用ができない家屋等約80戸を除き復旧)
- ・通信: 携帯電話基地局 最大839局停波(3局停波)



出典: 令和6年能登半島地震に係る被害状況等について (内閣府 令和6年12月24日14時現在)
令和6年版情報通信白書(総務省)

1 令和6年能登半島地震と本市の対応

本市の対応

総務省など関係省庁や協定団体等からの要請に基づき、対口支援先である輪島市、加賀市ほか10市町に対し、職員を派遣

指定都市市長会現地本部長、緊急消防援助隊静岡県大隊長、日本水道協会静岡県支部長などとして関係団体をまとめ、静岡県等とも連携し、組織的に支援を実施

短期職員派遣（R6.1/1～5/31：派遣期間は1週間程度）

実派遣職員数	906人
延べ派遣職員人数	5,941人

主な活動内容（要請元）

- ・救助救命活動（総務省消防庁）
- ・支援物資荷捌き等（総務省）
- ・水道の応急復旧活動（日本水道協会）
- ・下水道施設被害調査（下水道事業災害時中部ブロック）
- ・住家被害認定調査（総務省）



救助救命活動



住家被害認定調査

中・長期職員派遣（R6.5/1～：派遣期間は3か月～半年）

派遣先	実人数	活動内容
輪島市	4人	公費解体等にかかる各種事務作業
	6人	河川の災害復旧事業費決定のための設計書作成事務
珠洲市	6人	上下水道施設の災害復旧工事の設計等

2 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の発表と対応

2 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の発表と対応

臨時情報(巨大地震注意)発表に関する時系列

日付	時	活動内容
8/8	16:43	地震発生 マグニチュード7.1 最大震度 6 弱 宮崎県日南市(にちなんし)
	17:00	南海トラフ臨時情報「調査中」発表
	19:15	南海トラフ臨時情報「巨大地震注意」発表
8/15	17:00	「特別な注意の呼びかけ」の終了

静岡市の対応

- ・危機管理監を本部長とする**危機警戒本部を設置**(24時間体制で情報収集)(8/8 19:15)
- ・市民に対し、家具の固定状況等の**日頃からの地震への備えを再確認**するよう呼びかけ(19:27)
- ・事業者に対し、来店者・利用者、従業員の安全確保等についての再確認と、必要な事業を継続するための措置の実施を要請(22:26)
- ・**市長記者会見**で改めて呼びかけ(8/9 11:00)
- ・イベント等の延期・中止は行わない

(参考)南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発表時の事前避難

対象地域	津波浸水想定区域
対象者	避難行動要支援者のうち、 事前避難を必要とする者

※静岡市地域防災計画

3-1 令和6年度の風水害

3-2 台風第10号の被害と対応

3-1 令和6年度の風水害

太平洋高気圧の
縁辺流による大雨
台風第10号

No	月日	発表された 警報等	最大累加雨量 (降雨時間)	1時間最大 降水量	災害対策 本部の設置	避難情報の発表 (避難対象)※最大時	主な被害
1	6/28-29	大雨・洪水警報 土砂災害警戒情報 線状降水帯情報	247.0mm (34時間)	66.0mm	本部設置	30,914世帯 75,307人	崩土、擁壁倒壊(畑)
2	8/9	大雨警報	110.0mm (3時間)	66.0mm	—	—	停電
3	8/22	大雨警報	157.5mm (7時間)	45.5mm	—	—	道路冠水
4	8/23	大雨・洪水警報 土砂災害警戒情報	380.0mm (14時間)	93.0mm	本部設置	1,555世帯 3,579人	床下浸水、道路冠水、 土砂流入、停電
5	8/24	大雨・洪水警報	141.0mm (5時間)	66.0mm	—	—	停電
6	8/25	大雨警報	82.0mm (5時間)	48.0mm	—	—	停電
7	8/27-8/28	大雨・洪水警報 土砂災害警戒情報	273mm (41時間)	43.0mm	本部設置	29,841世帯 72,447人	床下浸水、崩土、 停電
8	8/29-9/1	大雨・洪水警報 土砂災害警戒情報	730.5mm (150時間)	75.0mm	本部設置	143,546世帯 328,335人	※次ページのとおり
9	11/2	大雨・洪水警報 土砂災害警戒情報	154.5mm (28時間)	74.0mm	本部設置	—	崩土、道路閉塞、 土砂流入、突風
10	11/26-27	大雨・洪水警報	140.0mm (10時間)	61.5mm	—	—	被害なし

大雨警報・土砂災害警戒情報の発表回数は、予報区が市町村単位(本市は静岡市南部・北部に区分け)となった平成22年以降最多。静岡地方気象台での8月降水量(1071.0mm)は、統計開始以来の1位を更新

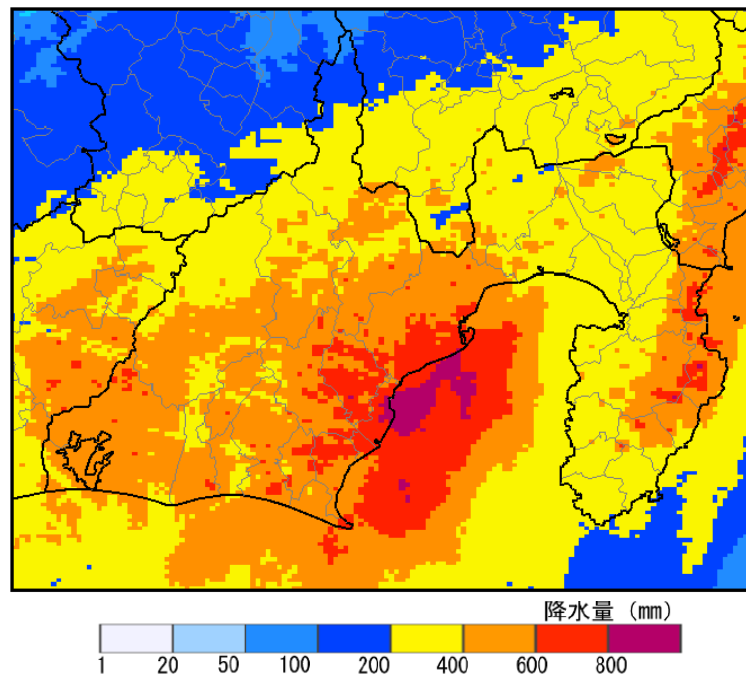
3-2 台風第10号の被害と対応

降雨の概要

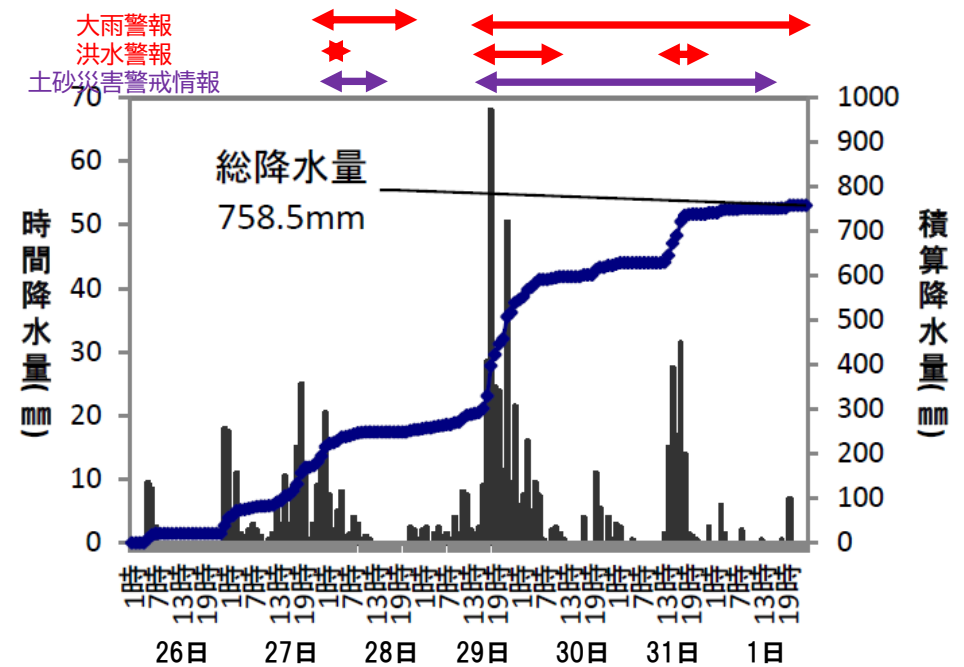
静岡県では、台風第10号の接近に伴い、8月26日夕方から9月1日にかけて断続的に雨が降り、27日から31日にかけて非常に激しい雨や猛烈な雨の降った所があった。

静岡地方气象台での8月26日から9月1日にかけての総降水量は、平年の8月の月降水量の4倍以上となり、月最大72時間降水量(8月30日05時40分まで)は、統計開始以来の1位を更新した。

※統計開始年1976年



120時間積算解析雨量
(8月27日0時～8月31日24時)



静岡市駿河区の降水量推移
(8月26日～9月1日)

出典:令和6 年台風第10 号に関する静岡県気象速報(静岡地方气象台)

3-2 台風第10号の被害と対応

8月29日(木)～9月2日(月)の対応

主な警報等	発表期間	
大雨警報（静岡市南部）	8/29 15:40～9/1 21:40	78時間
土砂災害警戒情報（静岡市南部）	8/29 17:00～9/1 16:50	71時間50分

この期間中、静岡市南部に洪水警報、静岡市北部に大雨警報・土砂災害警戒情報も発表された

静岡市の体制

8/29 16:00	危機警戒本部 設置
8/29 17:00	災害対策本部 設置 避難場所開設
	(本部会議 3回)
9/1 16:50	避難場所閉鎖
9/2 08:40	災害対策本部 廃止

対応期間：88時間、配備職員：延べ2,035人



第1回本部会議（8/29）

3-2 台風第10号の被害と対応

発表した避難情報

月日	時刻	避難情報の種類	避難の対象区域	避難対象世帯・人数	
8/29	17:00	高齢者等避難 発表	市内全域 の土砂災害警戒区域及び洪水浸水想定区域	167,344 世帯	385,693人
	17:00	避難指示 発表	静岡市南部の土砂災害警戒区域	29,841 世帯	72,447人
	17:45	避難指示 発表	秋山川流域の洪水浸水想定区域	3,395 世帯	8,384 人
	17:50	避難指示 発表	静岡市北部の土砂災害警戒区域	1,518 世帯	3,320 人
	18:05	避難指示 発表	足久保川流域の洪水浸水想定区域	1,073 世帯	2,860 人
	18:30	避難指示 発表	内牧川、牧ヶ谷川流域の洪水浸水想定区域	1,441 世帯	3,374 人
	18:40	避難指示 発表	市内全域 の洪水浸水想定区域	143,546 世帯	328,335 人
	18:43	緊急安全確保 発表	和田川周辺の洪水浸水想定区域	8,937 世帯	22,000 人
	20:11	避難指示へ切替	和田川周辺の洪水浸水想定区域	8,937 世帯	22,000 人
8/30	06:00	避難指示 解除	市内全域 の洪水浸水想定区域	143,546 世帯	328,335 人
8/31	14:39	避難指示 発表	秋山川流域の洪水浸水想定区域	3,395 世帯	8,384 人
	15:32	高齢者等避難 発表	市内全域 の洪水浸水想定区域	143,546 世帯	328,335 人
	16:27	避難指示 発表	常念川流域の洪水浸水想定区域	1,756世帯	3,925人
	16:51	避難指示 発表	清水区の洪水浸水想定区域	26,281 世帯	62,047 人
	17:13	避難指示 発表	葵・駿河区の洪水浸水想定区域	117,265 世帯	266,288 人
	19:00	高齢者等避難へ切替	市内全域 の洪水浸水想定区域	143,546 世帯	328,335 人
9/1	06:40	高齢者等避難 解除	市内全域 の洪水浸水想定区域	143,546 世帯	328,335 人
	07:21	避難指示 解除	静岡市北部の土砂災害警戒区域	1,518 世帯	3,320 人
	16:50	避難指示 解除	静岡市南部の土砂災害警戒区域	29,841 世帯	72,447 人

降雨予測や水位情報などを参考に、災害リスクに応じ区域を絞って**19回の避難情報を発表**
 ※危機管理型水位計の水位をもとに、中小河川にも避難情報を発表

3-2 台風第10号の被害と対応

主な被害状況

- ・人的被害 なし
 - ・住家被害 床上浸水27棟 床下浸水39棟（葵区牧ヶ谷・内牧など）
 - ・崩 土 36件（葵区内牧、駿河区根古屋、清水区村松(鉄舟寺)など）
 - ・河 川 河道閉塞12件（葵区大門川、清水区和田川など）
 - ・道 路 冠水79件, 損傷15件（清水区西里など）
 - ・農 林 道 63路線で土砂流入・倒木等（駿河区根古屋など）
 - ・停 電 4,540戸（清水区興津清見寺町、駿河区大谷の一部など）
- ※静岡河川事務所から
排水ポンプ車を派遣いただいた



駿河区根古屋の崩土



葵区秋山川の越水

4 林道東俣線における崩土

4 林道東俣線における崩土

崩土の概要

(1)発生日時 令和6年9月19日(木)午前10時ごろ

(2)場 所 林道東俣線の起点から上流11.2km



崩土の状況

(3)発生土量 約700m³

(4)孤 立 者 崩土現場より上部にある樫島ロッジ等に
宿泊している一般登山者、山小屋宿泊者、
工事関係者の計212人が孤立

地理院地図
GSI Maps



出典: 国土地理院地図を加工し作成

4 林道東俣線における崩土

崩土の概要

(5)特記事項

- ・崩土発生現場は、携帯電話の圏外
- ・秋の行楽シーズンで、山中に観光客が多く滞在
- ・崩壊箇所には不安定土塊が残り、更なる崩壊の危険性

静岡市の対応

- ・災害対策本部を設置するとともに、吉田副市長が現場に向かい、現地災害対策本部を設置
- ・消防ヘリ、衛星電話、ドローンを活用した情報収集
- ・現地本部とのWeb会議システムによる情報共有
→孤立者の移送、崩土の撤去を計画・実施



ドローンによる状況把握



現地本部とのWeb会議

9/19 15:45	災害対策本部 設置
9/19 16:00	現地災害対策本部 設置
	(本部会議8回)
9/23 15:15	災害対策本部 廃止

対応期間:4日間

4 林道東俣線における崩土

(1) ヘリコプターによる孤立者の移送



静岡県防災ヘリの派遣協力により孤立者移送が迅速に完了

運行日時	ヘリ搬送回数		移送人数	移送人数 内訳
	市消防ヘリ	県防災ヘリ		
9月20日(金)	9回	16回	142人	登山関係97人、 工事関係45人
9月21日(土)	3回	3回	22人	登山関係6人、 工事関係14人、 ロッジ2人
合計	12回	19回	164人	

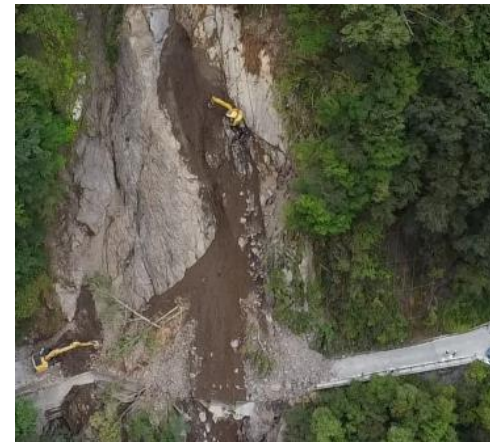
※警察からも県警ヘリ提供の協力打診あり

(2) 崩土の撤去

日時	内容
9月21日(土)	撤去作業開始
9月23日(月)	12時以降 緊急車両のみ通行可
9月24日(火)	通常の交通規制で運用

国土交通省(TEC-FORCE)によるロボット操作装置の派遣

→ 掘削機械(バックホウ)を遠隔操作することで、安全かつ迅速に土砂撤去作業を実施



遠隔操作による2台の掘削機械により土砂を撤去

(3) 情報の共有

国土交通省静岡国道事務所・河川事務所、静岡県危機管理部から、市災害対策本部にリエゾンが派遣され、現地の被害・対応状況を共有

本市河川の概要と浸水対策

～2024年台風10号災害を踏まえた浸水対策について～

令和7年1月28日 静岡市防災会議

目次

1. 静岡市内を流れる河川
2. 流域治水の効果
3. 2024年台風10号災害を踏まえた浸水対策について
4. 巴川流域における新たな取組み事例について

1. 静岡市内を流れる河川

静岡市内を流れる河川

◆安倍川

等級：一級河川
延長：50,800m
起点：静岡市葵区梅ヶ島
5264番地先
終点：駿河湾
管理：国土交通省・静岡県

◆興津川

等級：二級河川
延長：21,700m
起点：小樽沢合流点
終点：駿河湾
管理：静岡県

◆庵原川

等級：二級河川
延長：6,700m
起点：ホウノツ沢合流点
終点：駿河湾
管理：静岡県

◆巴川

等級：二級河川
延長：17,980m
起点：静岡市葵区北字才光寺
1646番地先の農道橋
終点：駿河湾
管理：静岡県

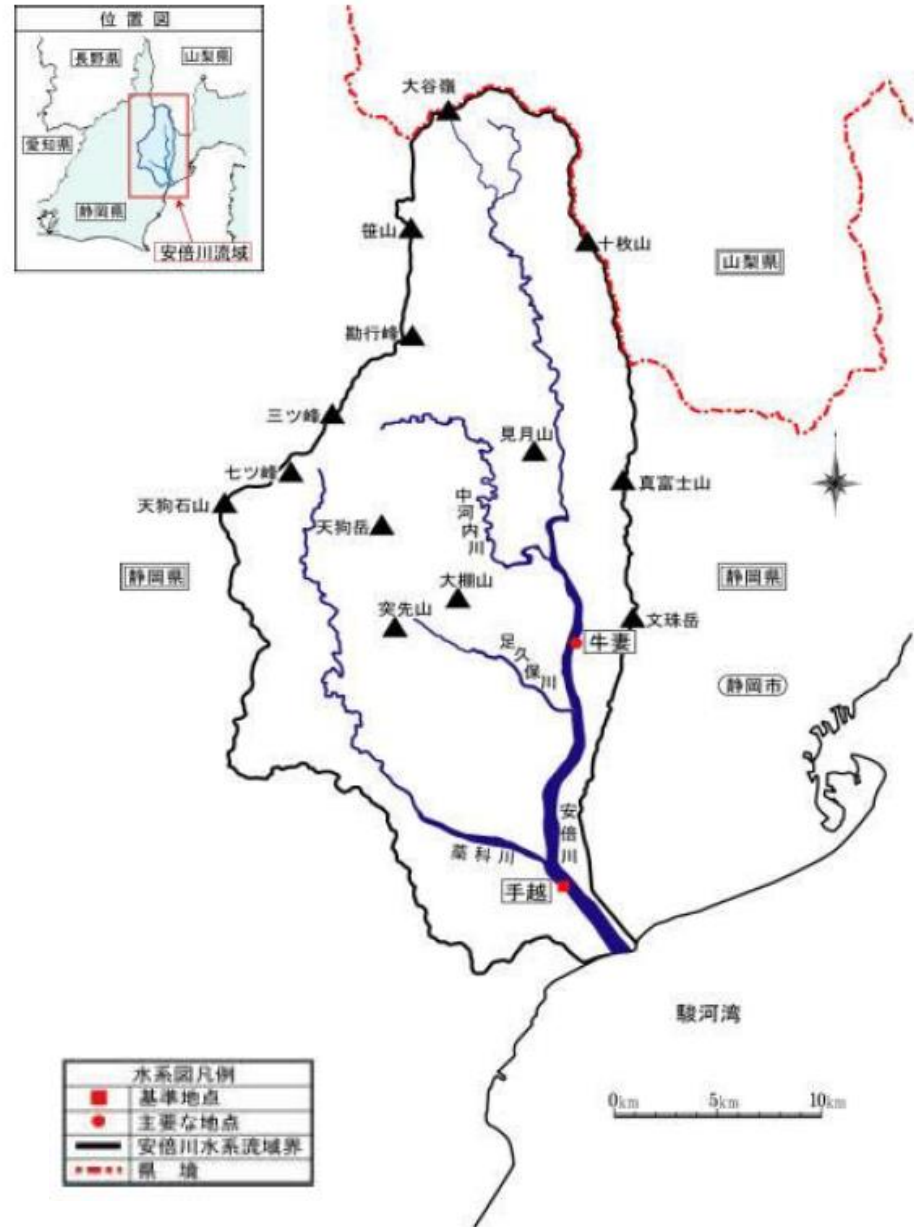


安倍川水系 流域概要

流域面積：567km²

主要支川：藁科川
安倍中河内川
足久保川

管理者
国土交通省
静岡県
静岡県



巴川水系 流域概要

流域面積：104.8km²

巴川本川 94.0km²

大谷川放水路 10.8km²

管理者

主要支川：七曲川
浅畑川
長尾川
継川
吉田川
草薙川
瀬名新川
塩田川
山原川
大沢川

静岡県

二級河川巴川水系

(全域)



興津川水系 流域概要

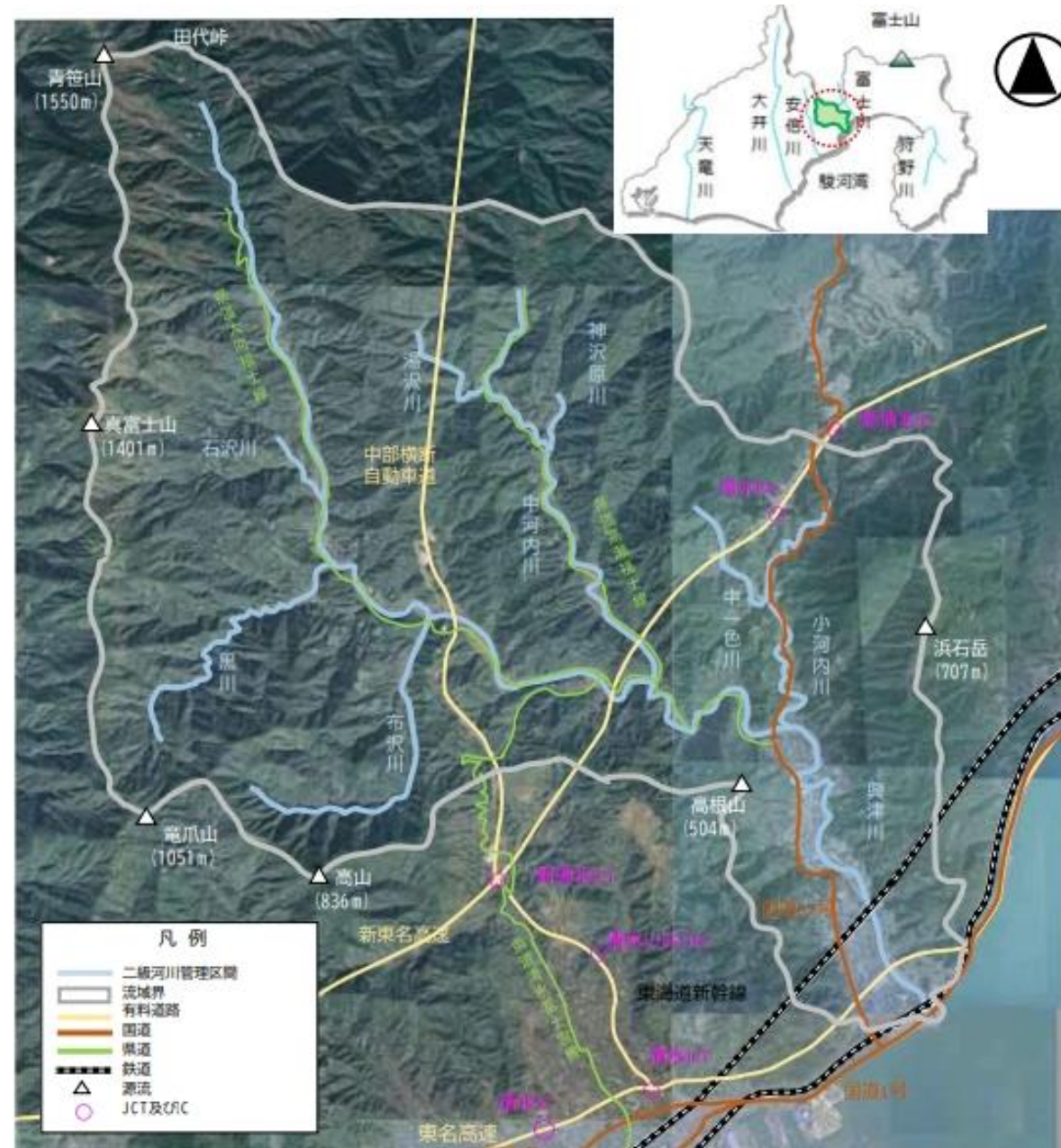
流域面積：約120km²

主要支川：石沢川
黒川
布沢川
中河内川
小河内川

管理者

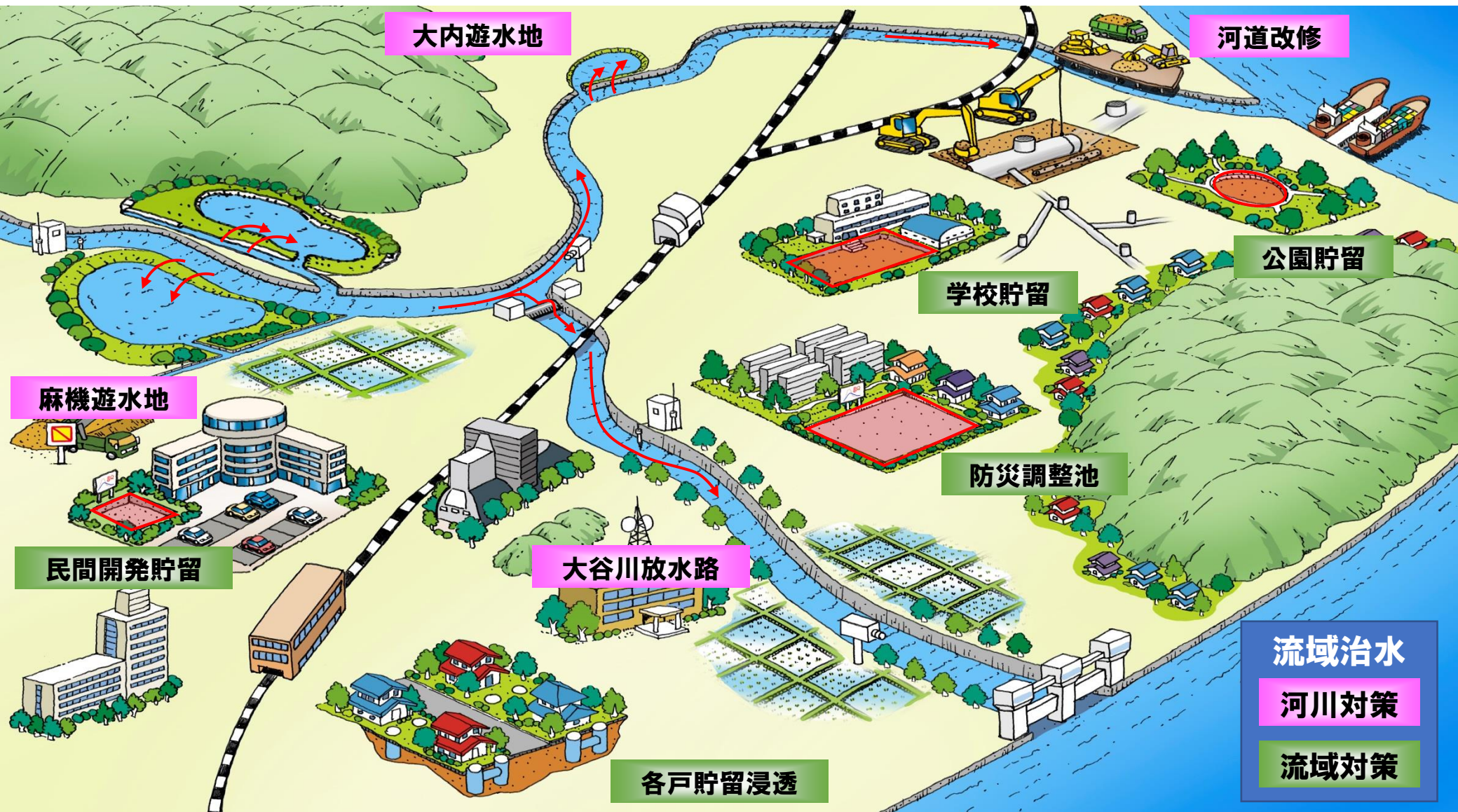
静岡県

※流域面積は巴川105km²より広い。



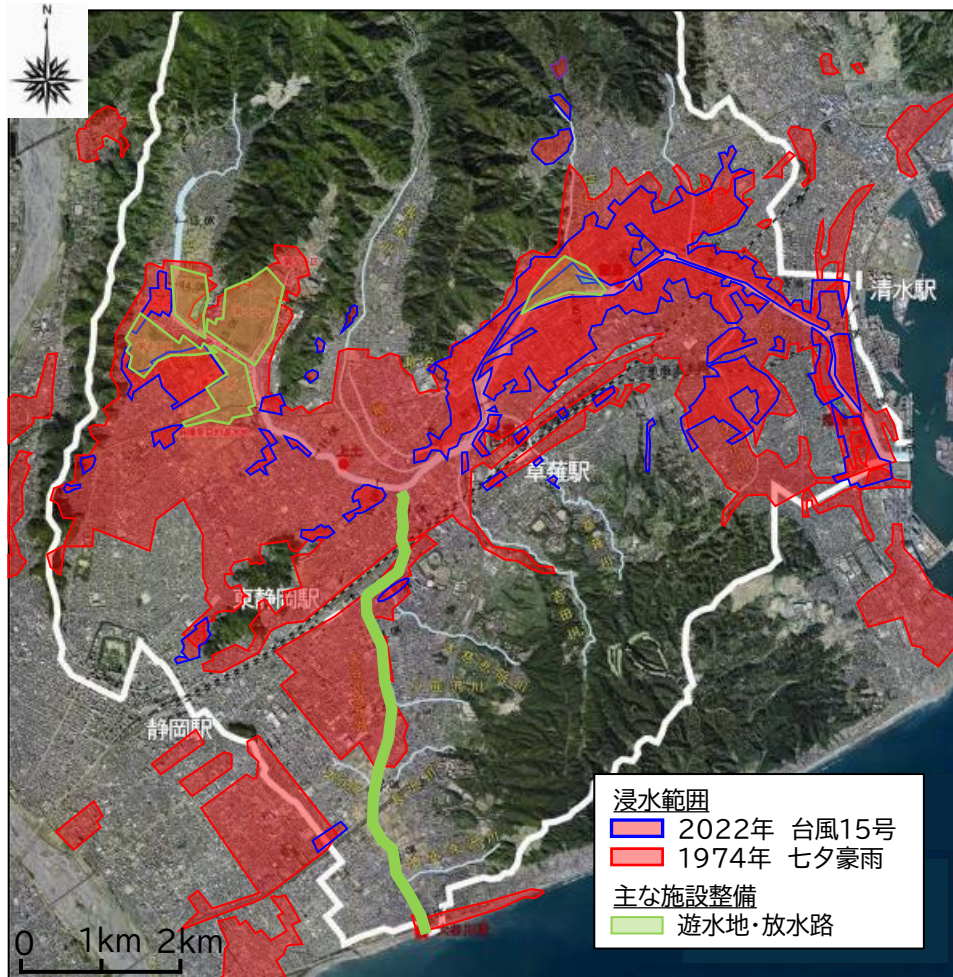
2. 流域治水の効果

巴川水系における流域治水

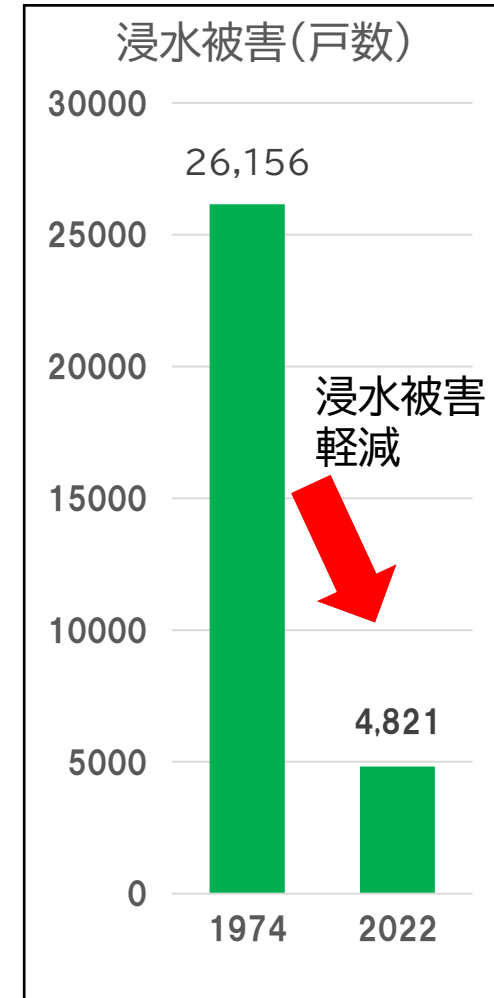
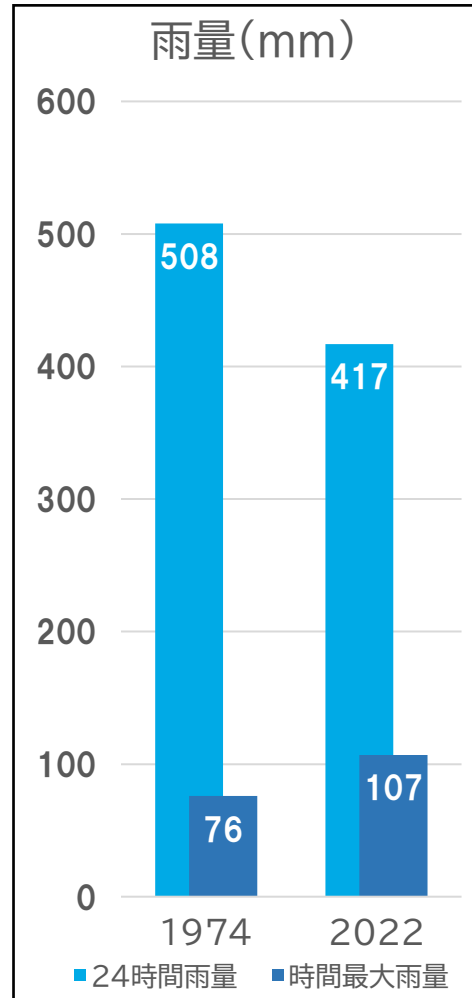


七夕豪雨と2022年台風15号の比較による流域治水効果(巴川流域)

浸水範囲



七夕豪雨と2022年台風15号の比較



3. 2024年台風10号災害を踏まえた 浸水対策について

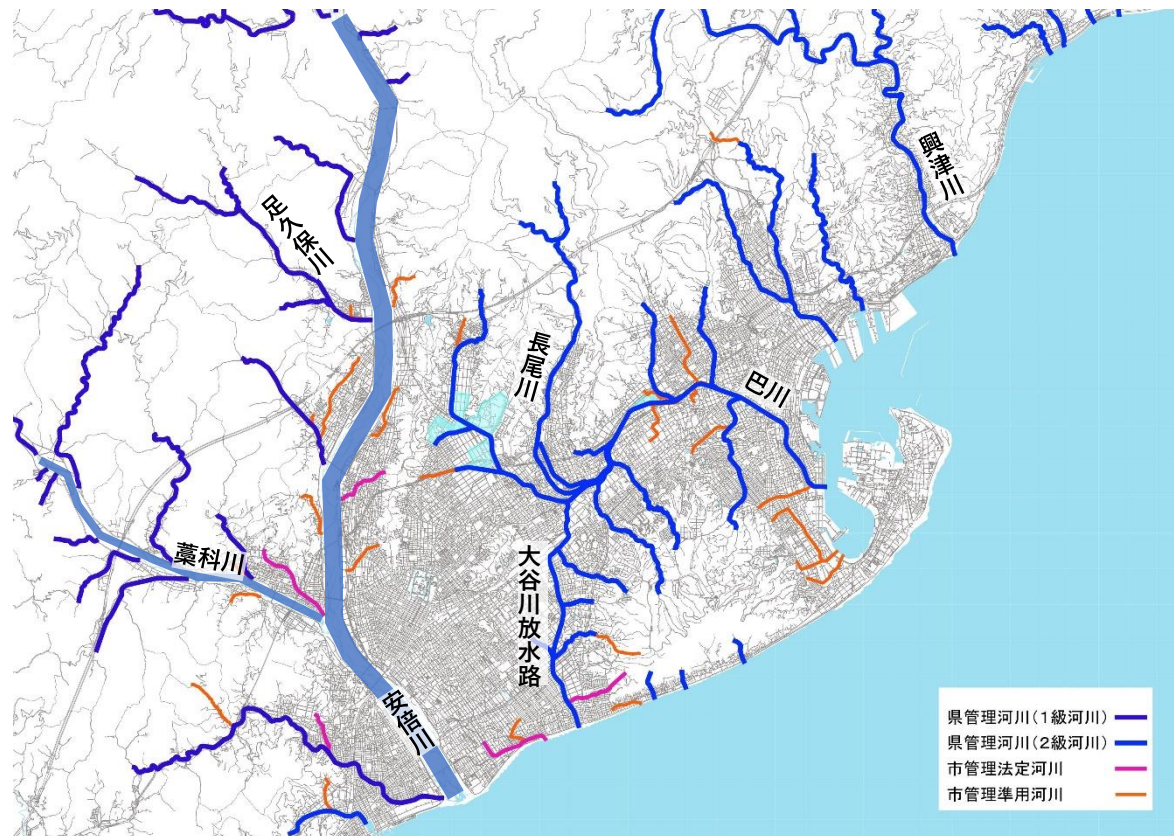
浸水被害の発生原因別のきめ細かな対策

浸水対策は、その場所の浸水被害の発生原因を一つひとつ丁寧に分析した上で、根本的対策・速効性のある対策を立案し、実行していくことが必要。

その際には、地域間での相互理解・協力が必要な場合がある（注）。

ここでも、「根拠と共感」に基づく行政執行が重要である。

（注）ある場所の川の流量を減少させるためには、流水能力で余裕がある他の場所の川の流量を増大させる必要がある場合がある。



浸水被害の発生原因の大分類

1. 本川（安倍川・巴川など）の越水

2. 本川（安倍川・巴川など）の水位上昇 + 河川流量による「支川の越水」

3. 巴川河口の高潮位 + 河川流量による「支川の越水」及び「水路からの逆流による浸水・滞水」

4. 支川の流水上の弱点に起因する越水

5. 川から越水ではなく、降雨量が排水力を超えたことによる低い場所の滞水

6. 川への土砂流出等により流路が塞がれたことによる上流側の水の滞水

（注）

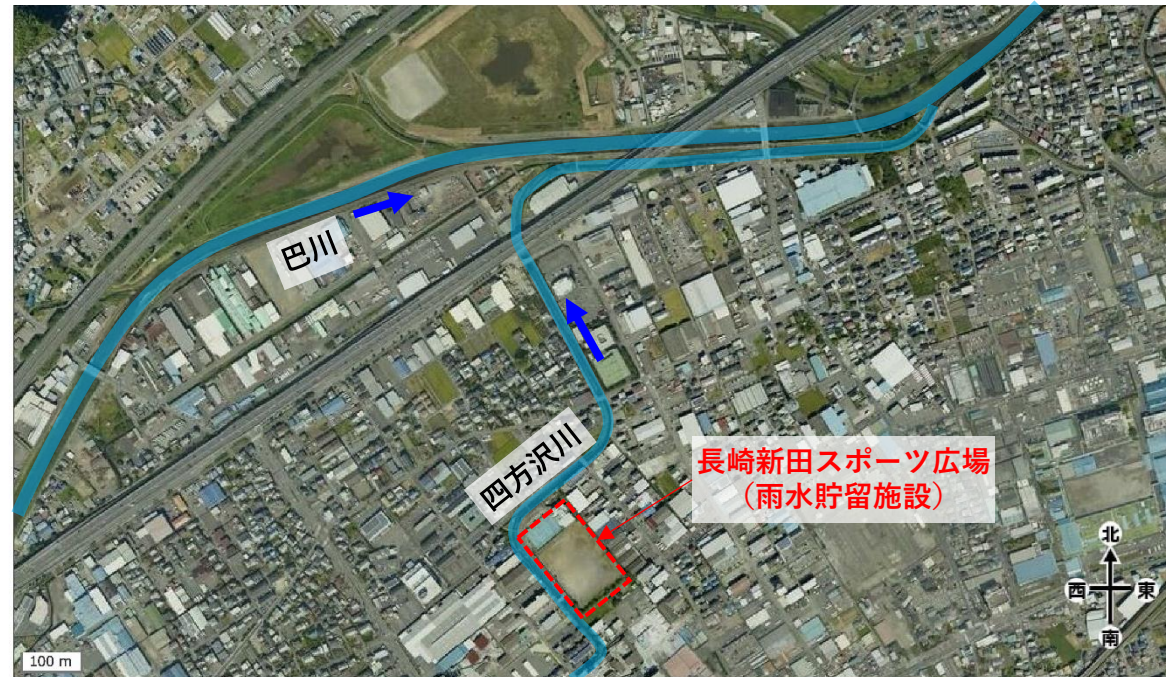
越水：正確には、堤防がないところでの水の溢れ出しを「溢水」（いっすい）、堤防のあるところでは「越水」という。

浸水：正確には、住宅などが水に浸かることを「浸水」、田畑や道路などが水に浸かることを「冠水」という。

滞水：流れずに一箇所で滞っている水

2. 本川(安倍川・巴川など)の水位上昇＋河川流量による「支川の越水」

【四方沢川（巴川中流部右岸側支川）】



巴川の滞留（バックウォーター）⇒それによる四方沢川の流下能力低下

巴川の水位が上がるため、四方沢川の流下能力が低下するが、四方沢川の流下能力を上げる抜本的方法はない。

⇒四方沢川流域の貯留量を上げて、浸水を防ぐ。

例) 長崎新田スポーツ広場（雨水貯留施設）の強化

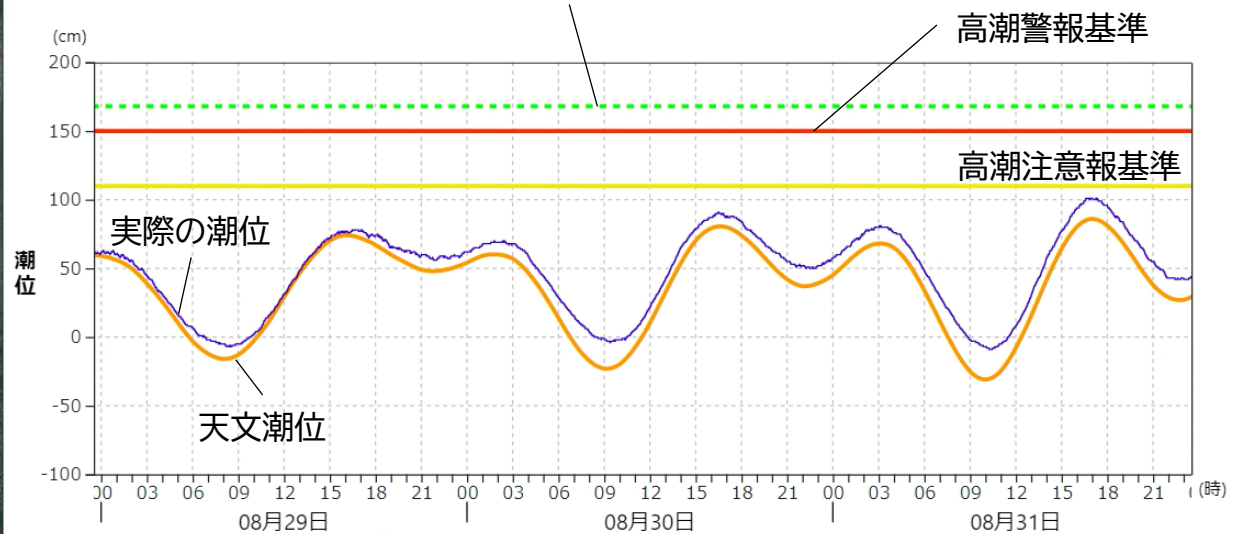
3. 巴川河口の高潮位 + 河川流量による「支川の越水」及び「水路からの逆流による浸水・滞水」

【常念川(巴川下流部右岸側支川)】



清水港の潮位 (気象庁)

過去最高潮位(168cm:2019年10月12日(東日本台風))

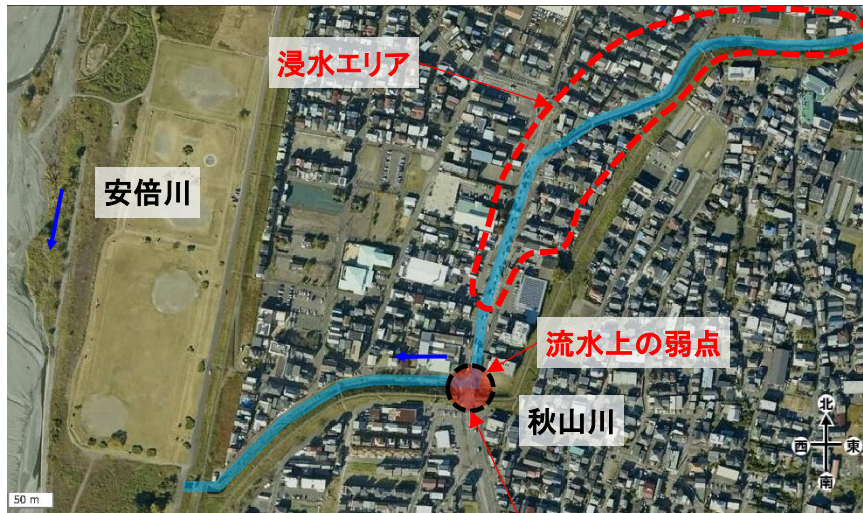


この程度の潮位だったので、被害は最小限だったが...

⇒逆流防止対策が必要

4. 支川の流水上の弱点に起因する越水

【秋山川】



急角部で水が滞流することで、上流の流下能力へ影響

秋山川の一部で流下能力が不足

⇒緊急対策として、急角部にバイパス管設置で能力増強

6. 川への土砂流入等により流路が塞がれたことによる上流側の水の滞水

【牧ヶ谷地区（南ノ谷川）】



南ノ谷川への土砂流入等により流下能力が低下

⇒牧ヶ谷公民館付近で越水が発生し、
低い場所に水が滞水

4. 巴川流域における 新たな取組み事例について

巴川の対策 (1)巴川流域水位・氾濫域予測システムの構築

《背景・目的》 2022年台風15号では、巴川流域で甚大な被害が発生

【市民の声】

- ・ 自宅周辺の浸水状況が分からず、避難に支障がでる。
- ・ 前もって危険な場所、安全な場所の情報が欲しい。

市が洪水時の予測システムを構築。県管理河川(巴川)であっても県に任せきりとししない

➡学識者(京都大学、静岡大学)や関係機関(静岡県、静岡地方気象台など)と共に
「二級河川巴川流域水位・氾濫域予測システム構築研究会」を設置し、
予測システムのモデルや市民への周知方法等について検討 ⇒ 2024年6月には試験運用開始

《システム構築によって実現すること》

○水位や氾濫域を予測し、分かりやすく「見える化」

小さな水路、下水道から大きな河川(巴川や長尾川など)に流れていく状態を再現したシステムを構築し、
そのシステムにこれからの降雨の予測を入力することで、巴川の水位変化や氾濫が想定される地域を予測する。
その結果を水位グラフや地図上に表示し、「見える化」する。

○必要な情報を早期に行政が発信

行政が今後の水害の状況を把握できることから、市民が避難するために必要な情報を早期に発信し、場所を
特定し、自動車の高台避難や家財を2階へ移動させるなどを呼びかけ、被害の軽減に繋げる。

※現在、システムの試行版を静岡市内部で運用しており、その検証結果を踏まえた上で、
市民への情報提供の方法を検討していく。

《システム構築・運用による社会的効果》

- ・ 予測システムの活用により避難指示が高度化され、市民の暮らしの安心感の飛躍的向上につながる。
- ・ 巴川のような中小河川で水位・氾濫域を予測している事例は少なく、全国的にも先進的かつ挑戦的な取組。

巴川の対策 (1) 巴川流域水位・氾濫域予測システムの構築

雨量予測

インプット

予測モデル

予測計算

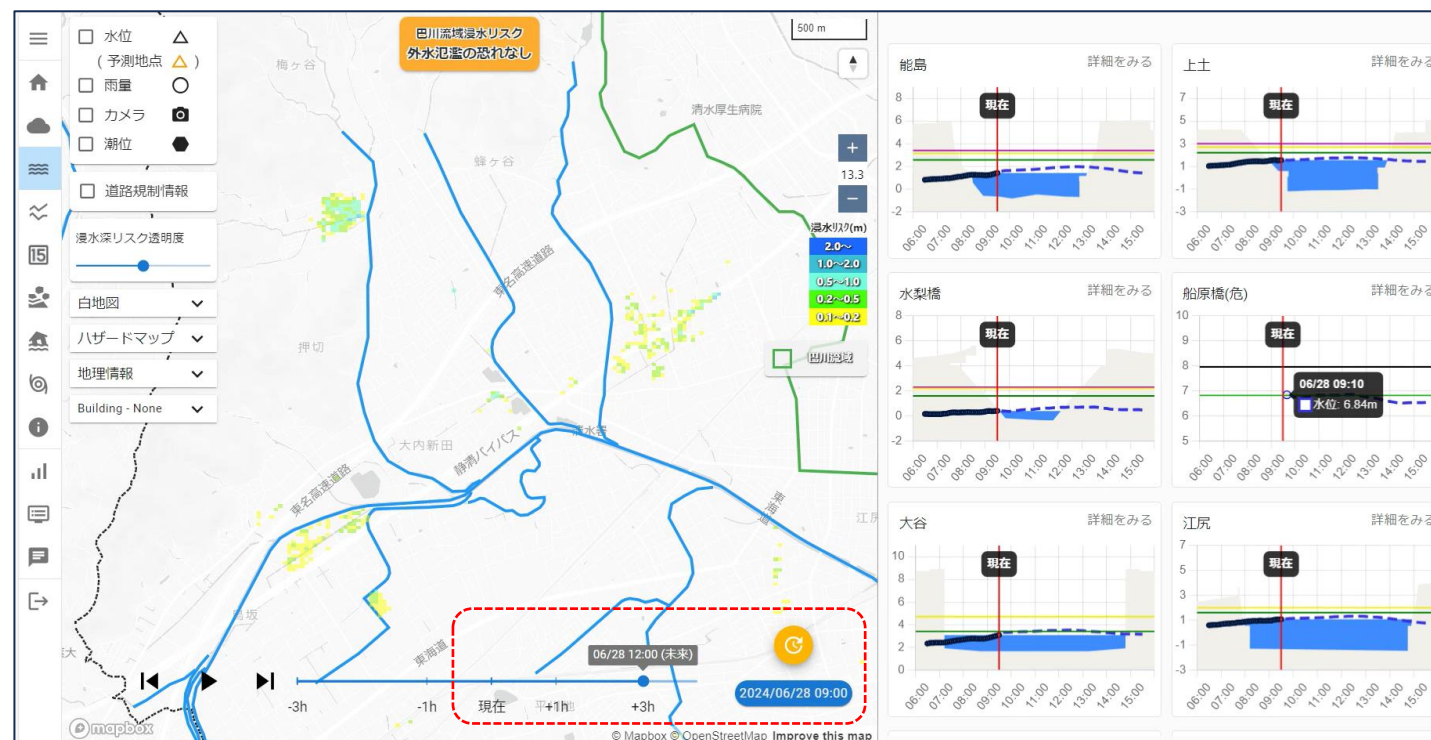
数時間後の浸水域を予測

弱点の明確化

効果的な事中減災
損失回避行動へ

効果的な
事前防災・減災

【試験版】 2024年6月28日9時に3時間後(12時)を予測した例



巴川の対策（２） 調整池貯留量の拡大(流域対策量の達成加速化)

《背景・課題》

- 巴川流域水害対策計画において、期間内(2040年まで)に、静岡市は10.4万 m^3 の流域対策量(調整池)の整備が求められている。
- 巴川流域の市立小中高校におけるグラウンド貯留は全て完了し、追加で大規模に実施できる施設が少なく流域対策量の進捗が停滞

表 5.1 流域対策量（調整池容量換算）

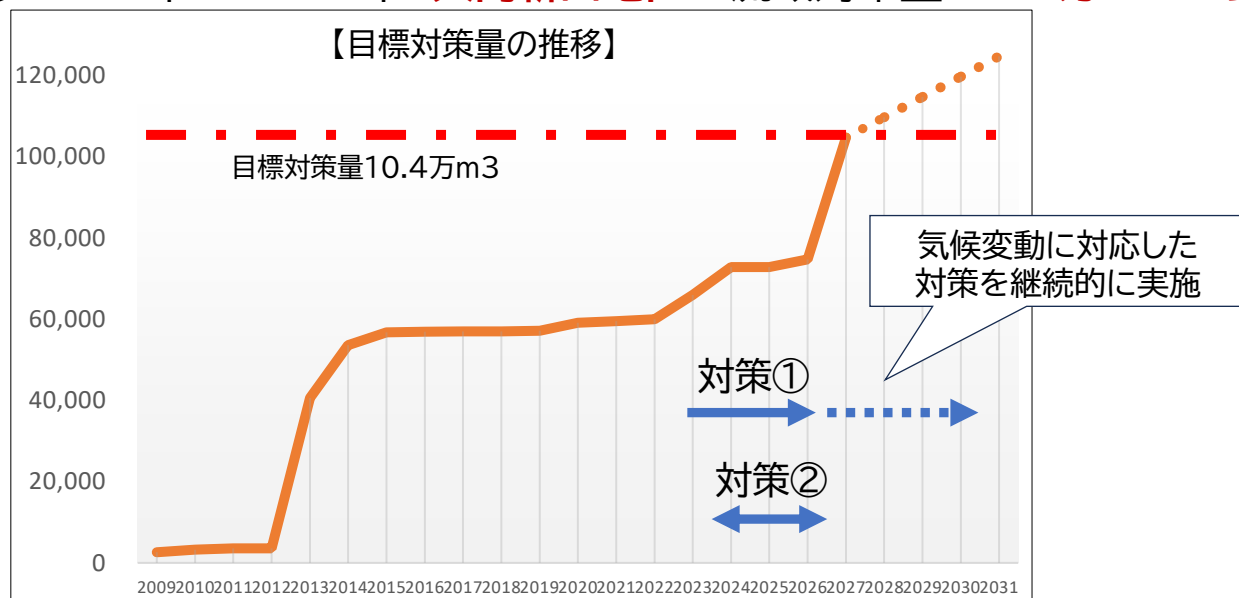
地方公共団体名	目標対策量	達成状況
静岡県	約 6 万 m^3	約 2 万 m^3
静岡市	約 10 万 m^3	約 6 万 m^3
合 計	約 16 万 m^3	約 8 万 m^3



豊田中学校のグラウンド貯留

《静岡市における2023年以降の新たな取組》

- ①2023年～ **既存施設の事前放流や機能増強**により流域対策量確保
(弁天池、所川堤、山田池 など)
- ②2024年～2027年 **大内新田地区**の流域対策量を**1.5万 m^3 から3.0万 m^3 に増加**



様々な工夫を行うことで、
目標を13年前倒して実現
(2040年→2027年)

(1)災害総合情報システムについて

資料5

《システム開発の経緯》

- 令和4年9月の台風15号では記録的な大雨により市内各所において大規模な浸水被害、土砂崩れが発生するほか、広範囲において断水、停電するなど、甚大な被害が発生したことで、市民生活に大きな影響を及ぼした。
- 近年、激甚化、頻発化する自然災害が発生した際、市民が必要とする情報を適時適切に伝達するため、DXを活用した情報の伝達体制の必要性が高まっている。

静岡市防災ナビ(市民向けウェブサイト)

- 市民の皆さんに災害関連情報を迅速かつ分かりやすく提供することを目的としたウェブサイト。
- 気象警報等や避難情報、避難所の開設情報などの災害時に必要なあらゆる情報を確認できる機能を有している。

<主な機能>

- ① 気象警報・避難情報等確認機能…大雨警報などの気象警報、避難指示などの避難情報が確認できる。
- ② 避難所情報確認機能…開設されている避難場所・避難所が一覧で確認できる。
- ③ ライフライン・公共交通情報確認機能…電気や通信、水道、道路規制、鉄道運航状況の情報が確認できる。
- ④ 注意喚起情報確認機能…台風接近や災害発生などの注意喚起情報が確認できる。
- ⑤ 災害支援情報確認機能…災害の被害に対する行政からの支援情報を確認できる。
- ⑥ 災害情報地図表示機能…災害関連情報を地図上で確認できる。
- ⑦ 被害情報投稿機能…身の回りの被害情報を行政に提供できる。



<イメージ>

内部災害情報システム(行政向けシステム)

- 市職員向けの災害対応業務支援システム。
- 職員が投稿した被害情報やSNS情報を収集するほか、大雨や河川水位などの状況をリアルタイムで監視する機能などを有しており、適時適切な注意喚起や迅速な避難情報の発表に活用することができます。

<主な機能>

- ① 被害情報・SNS情報収集機能…市民が投稿した被害情報やSNS上の災害関連情報が一覧や地図画面で確認できる。
- ② 大雨・土砂災害リアルタイム監視機能…降雨量や土壌雨量指数の現状と今後の予想を地図やグラフで表示できる。
- ③ 河川水位・道路状況監視機能…河川水位や道路の規制情報を地図やグラフで表示できる。
- ④ ドローン情報表示機能…ドローンで取得した写真や動画の共有や3Dの表示ができる。
- ⑤ 被害情報報告機能…被害情報から施設や住家等の被害件数を自動集計し、県や国に報告できる。



<イメージ>

(2)災害時の水供給の新たな取組

＜災害時協力井戸の設置促進＞

- 大規模災害時におけるライフライン復旧までの代替水源となる、災害時協力井戸の登録件数の増加に向けた2つの取組を実施(災害時協力井戸登録件数 2023年度末27件 → 2025.1.21現在215件 **188件増加**)

①自主防災組織井戸掘削費補助金

災害時協力井戸への登録を条件として、自主防災組織が井戸を新規に掘削する費用に対し、**補助率1／2、上限額50万円**で補助金を交付。
※埋め戻した井戸を使える状態にするための掘削費用も対象

②災害時協力井戸登録奨励金

災害時協力井戸に登録いただいた個人、自主防災組織、事業者を対象とし、すでに登録済みの方、及び今後登録される方を対象に、インセンティブとなる**奨励金3万円**を交付。



《配水池を活用した飲料水の供給》

- これまで、災害時に発生する断水への応急給水については、一人1日3ℓの飲料水を最低限3日分供給できるよう、給水拠点に100tの水を貯留できる耐震性貯水槽や数十tの容量の給水栓付受水槽を整備してきた。また、併せて、他都市の応援も含めた給水車などにより対応することとしてきた。しかし、多数の都道府県が同時に被災するような大規模地震発生時には、能登半島地震の状況を踏まえると他都市から早期の支援を確実に受けることは困難であると考えられるため、給水車に頼らない水の供給として新たに下記の取組を実施。

○配水池に給水栓等設置

数千tの水が貯留されている配水池の水を活用し、
2024年度から2025年度にかけて、
12中学校区に最低限3日分の飲料水が供給できるよう
南安倍配水場ほか8つの配水池※に給水栓等を設置する。



配水池に設置した給水栓事例

(3)水害時の車両の避難場所の確保

《経緯》

- 2024年5月に有限会社新日邦と所有施設の一部を車両の避難場所として提供いただく旨の協定を締結し、台風第10号の際、8月27日から9月2日まで計7日間、のべ560台の車両を受け入れていただいた。

《避難場所拡充のための取組》

- 市民の皆さんの貴重な財産である車両を、水害からより多く守るために、9月から以下2つの取組を実施

①「水害時緊急避難協力駐車場」を提供いただける民間事業者を募集

災害リスク等を確認したうえで、応募のあった事業者と協定を締結し、水害時に所有する施設・場所を市民に車両の避難場所として利用可能にする。

⇒株式会社ABC、株式会社アプリイそれぞれと2025年1月に協定を締結。

避難車両の最大駐車可能台数は、2社合計で1,993台。

【利用可能な施設(1月28日(火)時点)】 9施設 合計 2,171台分

No.	施設名称	場所	最大駐車可能台数
1	SUPER CONCORDE (静岡市駿河区曲金七丁目8番22号)	立体駐車場の4階部分	178台
2	ABC4店舗 (清水袖師町店、静岡中吉田店、静岡寿町店、静岡柳町店)	各店舗の立体駐車場のうち、 株式会社ABCが指定した部分	1,289台
3	アプリイ4店舗 (中原店、新伝馬店、沓谷店、富士見台店)	各店舗の立体駐車場のうち、 株式会社アプリイが指定した部分	704台

②市所有の公共施設のうち、「水害時緊急避難公共駐車場」として利用可能な施設を選定

【利用可能な施設(1月28日(火)時点)】 3施設 合計 1,030台分

No.	施設名称(住所)	場所	最大駐車可能台数
1	静岡競輪場(駿河区小鹿)	南第4・第5駐車場	900台
2	秋葉山公園(清水区八坂東一丁目)	駐車場	100台
3	旧清水南部公民館跡地(清水区村松原一丁目)	公民館跡地(未舗装)	30台

(4)ドローンを活用した情報収集・分析体制

① 測量用ドローンの整備・職員の育成

- 三次元点群データの取得や自律飛行が可能なドローンを整備するとともに、職員が自ら操縦し被害状況を収集・分析する体制を構築することで、写真や測量データから被害を定量的に把握し**早期の外部機関への応援要請や情報提供、人命救助や応急復旧の迅速化・効率化を実現する。**

→産業用ドローンの整備、職員によるドローン操縦の国家資格取得

② 自律飛行航路の設定

- 二次被害のおそれがあり、接近が困難な津波被害地域の状況を早期に把握するため、事前に飛行航路をプログラムし、**操縦者の安全を確保しながら、自動航行により被害状況を収集する。**

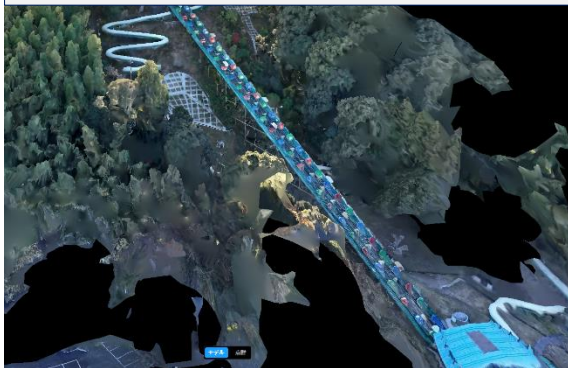
→市内17か所をドローンの発着点とし、沿岸部を自律飛行で確認する航路を設定

③ 物資輸送ドローンの実証実験

- 孤立集落に対し、無人航空機等による**食料・医薬品等の緊急物資が輸送できる**よう検討する。

→物資輸送ドローンによる物資搬送の実証実験を行い、機動性や経済性などを確認

職員が作成した点群データ



資格取得研修



物資輸送実験

